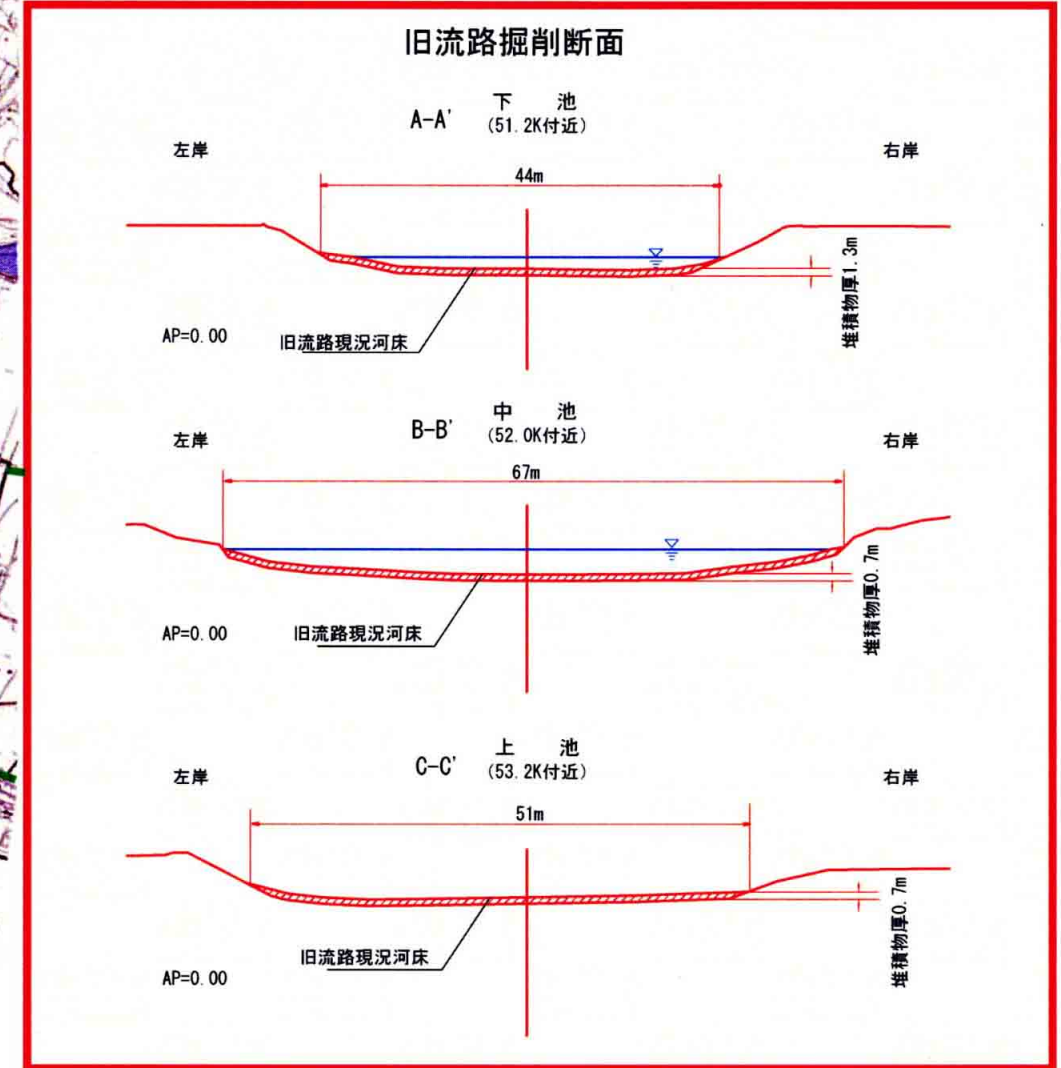
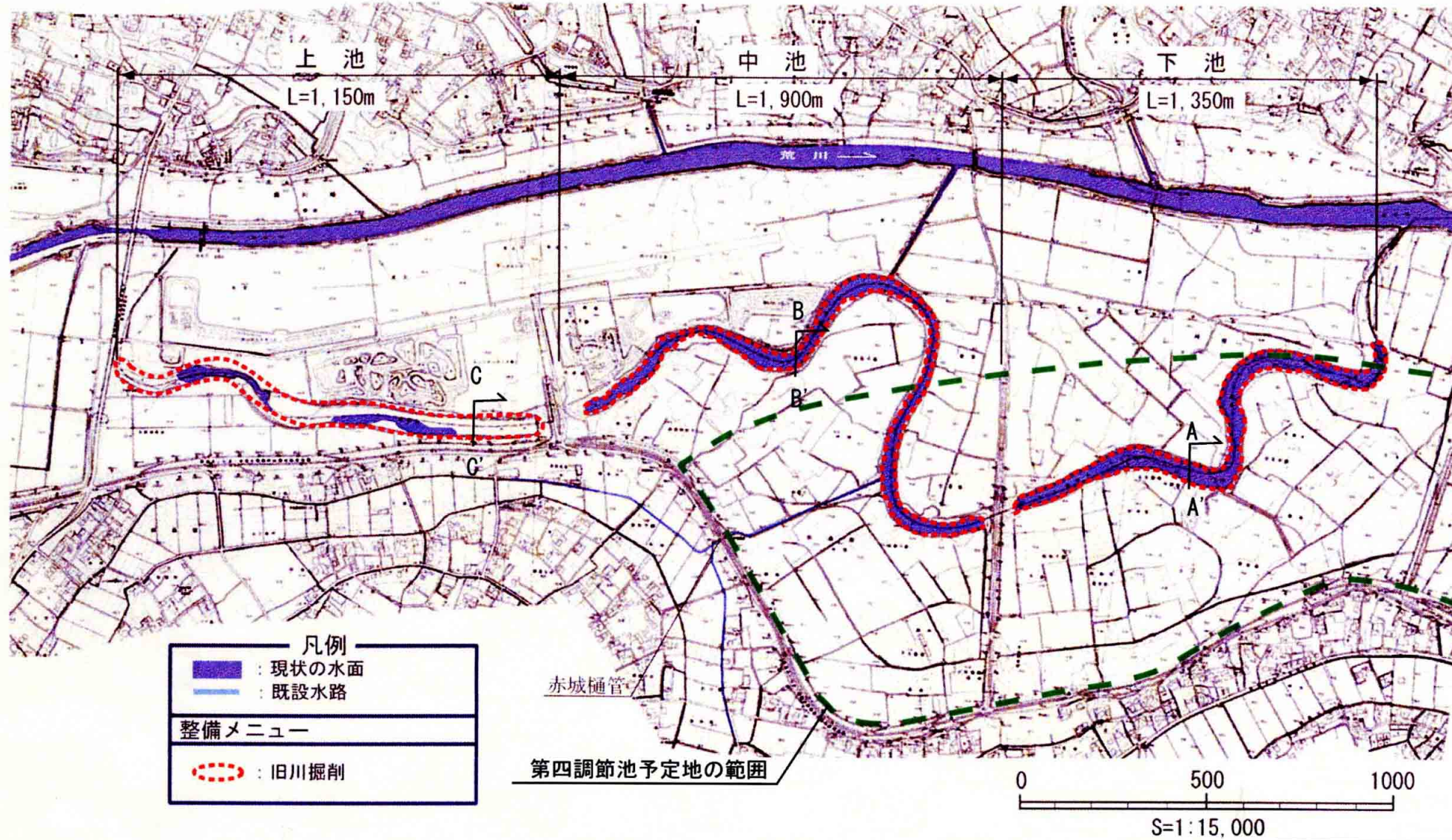


No. 1-2案 旧流路の掘削（堆積物の掘削）

平面図



目的	付替前の河床高を復元する。					
条件	- 上池のボーリング結果より、上池・中池の堆積土砂厚を0.7mと想定する。下池は平均1.3m(平均)で算定。 - 工事は水生動物・植物への影響を考慮し、工事中一時他に移植する。					
工事概要	掘削は、上池・中池は0.7mで、下池は1.3mで行う。水中生物への影響を考慮して工事は水替えにより行う。					
維持管理	特になし					
工事費	細別	単位	数量	単価(円)	金額(千円)	備考
	上池掘削(L=1150m)	m ³	41,400	900	37,260	単価には、機械掘削積み込み、1km以内ダンプ運搬、仮置き場敷均し含む。
	中池掘削(L=1900m)	m ³	89,300	900	80,370	単価には、機械掘削積み込み、1km以内ダンプ運搬、仮置き場敷均し含む。
	下池掘削(L=1350m)	m ³	76,950	900	69,255	単価には、機械掘削積み込み、1km以内ダンプ運搬、仮置き場敷均し含む。
	諸経費				93,415	直接工事費の50%と仮定し、端数を調整。
	工事費合計				280,300	
長所	- 治水上は問題ない。 - 掘削深度に地下水面がある場合、動力に頼らない地下水による水供給が期待できる。 - 本川の生態系に与える影響はない。					
短所	- 旧流路に直接的な変化を加えるため、旧流路内の生態系に影響を与える。 - 長期的には土砂の流入による堆積が懸念される。					
備考						

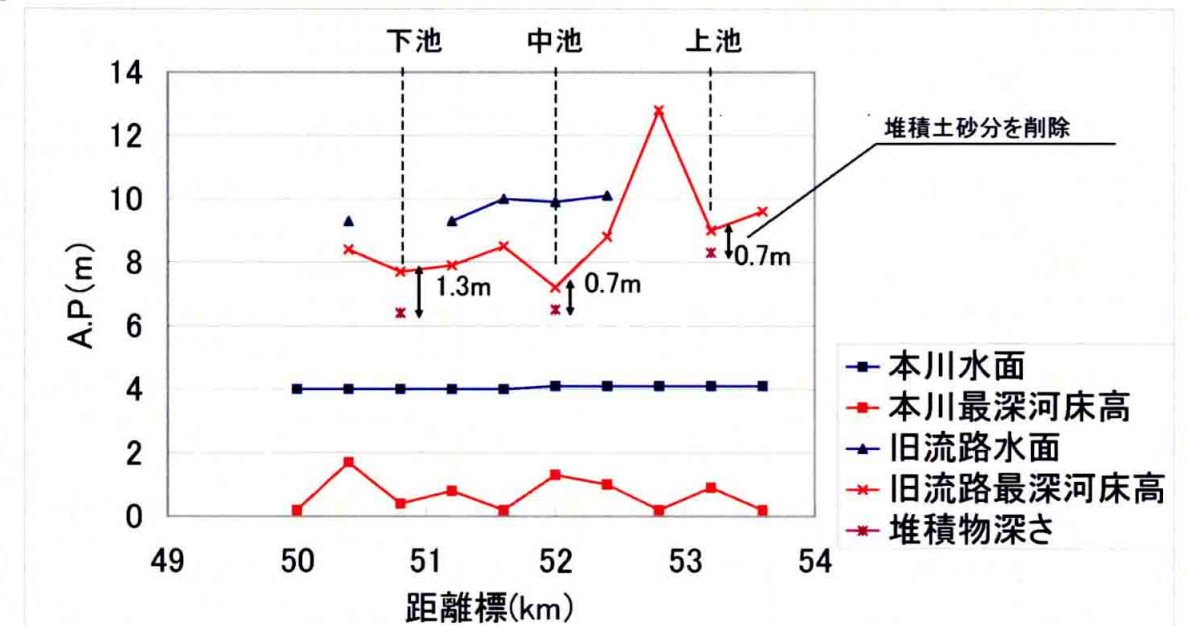


図 旧流路各池と本川の河床高